

# 令和元年度全国防災・危機管理トップセミナー (市区長)

## 防災課

### 1 トップセミナー（市区長）の概要

我が国は、その自然条件から地震、水害などの災害が発生しやすい特性を有しているため、こうした災害がどこでも起きる可能性があります。一旦、災害が起きると、市町村（市には特別区を含む。以下同じ。）には、短期間の内に膨大な業務に対応・処理することが求められることから、市町村長は、リーダーシップを十分発揮し、的確な災害危機対応を行う必要があります。

このため、市区長の災害危機管理対応力の向上につながるよう、全国の市区長を対象とした「全国防災・危機管理トップセミナー」を毎年開催しています。

### 2 トップセミナー（市区長）の内容

令和元年6月12日（水）14時30分から全国都市会館大ホールでセミナーを開催しました。会場には、全国から約150名の市区長に御参加いただきました。

#### 【次第】

- (1) 開会あいさつ  
総務大臣  
内閣府特命担当大臣（防災）
- (2) 必ずくる震災を乗り越えるためホンネで語り  
ホンキで実践  
名古屋大学 減災連携研究センター  
センター長・教授 福和 伸夫 氏
- (3) 平成30年7月豪雨災害における広島市の対応と今後の取組について  
広島市長 松井 一實 氏
- (4) 市町村の災害対応力の強化に向けて  
消防庁国民保護・防災部長  
小宮 大一郎

#### (1) 開催あいさつ

石田総務大臣

開会にあたっての御挨拶において、石田総務大臣は、全国どこでも災害が発生する可能性があるため、いざという時の備えを充実するとともに、出水期を迎えていることを踏まえ、改めて防災体制を確認する必要があると述べました。

また、①今年度から運用される水害・土砂災害の警戒レベル、②オールジャパンの災害協力体制の強化、③地域防災力の充実強化、④大規模テロ等への対応力の強化を要請しました。

その上で、「国家の究極の使命は、国民の生命と財産を守り抜くことである」との強い信念の下、引き続き国民の命を守るための消防・防災体制の充実・強化に努めていく旨を述べました。



写真1 石田総務大臣挨拶

## (2) 必ずくる震災を乗り越えるためホンネで語りホンネで実践

名古屋大学 減災連携研究センター  
センター長・教授 福和 伸夫 氏

続いて、名古屋大学減災連携研究センターの福和教授から、「必ずくる震災を乗り越えるためホンネで語りホンネで実践」とのテーマで市町村長による危機管理対応について御講演いただきました。

福和教授は、歴史上、日本で発生した大規模災害での被害状況や社会、時代に与えた影響、当時の様子を年表や動画などで紹介していただくとともに、今後発生が予想される災害、特に南海トラフ巨大地震による被害予想とその後の日本社会に与える影響について指摘され、行政の力では全てに対応することができないため、国民一人ひとりが災害を意識し、自力で何とかする雰囲気を作ることの重要性を述べられました。



写真2 福和教授の講演

## (3) 平成30年7月豪雨災害における広島市の対応と今後の取組について

広島市長 松井 一實 氏

続いて、広島県広島市の松井市長から、平成30年7月豪雨災害の経験を中心に御講演いただきました。

松井市長は、大規模災害を2度経験した市長として、平常時から①自分の市町村は大丈夫であろうと予断を持たず、災害への備えをとっておくこと。②その際、いかに

住民に「災害は身近に起こりうるもの」という当事者意識を持ってもらうかを意識すること。③大規模・広域自然災害に備え、近隣の市町村との危機管理体制の連携を図ること。また、災害発生の可能性が高まった時には、“狼少年”論を恐れることなく、人命を大切にすることに最善を尽くすのみという覚悟をもつこと。そして、復旧・復興期にあたっては、単に機能復旧するだけでなく、その地域に住んでいる住民が、これからも愛着を持って住み続けられるような“まち”にしていくという視点を持つこと、前例にとらわれず、常に検証を行い、必要な改善を行うこと、災害を記録に残し、継承を図っていくことの重要性を述べられました。



写真3 松井市長の講演

## (4) 市町村の災害対応力の強化に向けて

消防庁国民保護・防災部長

小宮 大一郎

消防庁の小宮国民保護・防災部長から、市町村の災害対応力の強化に向けた対応に係る説明を行い、セミナーを閉会しました。

### 問合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課  
TEL: 03-5253-7525